

山形県連小会報

第170号
 発行日 令和6年10月1日
 発行者 山形県連合小学校長会
 樋口潤一
 山形市木の実町12-37
 県教育会館(大手門パルス)

県連小 第2回理事会報告

「教育先進県やまがた」になるという志を抱いて -未来を見据え、心を一つに実践を重ねていこう-

樋口潤一会長あいさつ

1 7月の豪雨災害からの早期復旧を祈念

7月25日の集中豪雨により、本県の飽海地区及び最上地区を中心とした多くの地域で、浸水や水没、断水や道路の寸断など甚大な被害を受けました。また、災害救助にあっていた警察官の方や、避難途中の女性が尊い命を失うなど、突然の集中豪雨は本県の多くの方々に計り知れないほど深い傷跡を残しました。

8月現在、防災担当大臣が戸沢村と酒田市の被害状況を視察し、復旧にかかる費用を国が支援する「激甚災害」指定への手続きを進める見通しであり、県は、避難生活をしている方々を支援する仮設住宅の建設や「みなし仮設住宅」の提供も始めています。言い換えれば、豪雨災害からの復旧は、今なお道程の半ばでありこれからも続いていくものであるということです。

私たち校長は、こうした被災地の状況を改めて認識し一日も早い復旧を心から祈るとともに、教訓を共有し、各地区・各学校の防災教育のさらなる強化へとつなげていくことが重要であると考えています。

2 第78回県連小研究協議会の運営に感謝

令和元年度末から猛威をふるったコロナ禍を経て、5年ぶりの参集型開催となった「第78回県連合小学校長会研究協議会」は、主管である飽海地区小学校長会の皆様の多大なるご尽力によって、大成功を収めることができました。あらためて厚く御礼申し上げます。

研修Ⅰの講演会では、講師の富田勝氏より、バイオサイエンスに数々のブレークスルーを産み出し、「人工クモ糸」開発で有名なスパイバーや、代謝物質の解析技術で世界をリードするヒューマン・メタボローム・テクノロジーズなど、いくつものベンチャー企業を誕生・成功させている慶應義塾大学先端生命科学研究所の取組について教えていただきました。社会的にも技術的にも大きな構造転換が求

められる今、流行や同調圧力に流されず、「人とちがうことをする」、「自由な発想と好奇心に根付いたチャレンジこそが、真に新しいパラダイムを拓く」、「豊かな自然と文化を持つ鶴岡でこそ取り組めるサイエンスを展開する」という確固たる志で世界と勝負している「慶應先端研」の実践は、私たち校長に大きな希望を与えてくださいました。また、富田氏からいただいた「山形は必ず、『教育先進県やまがた』になる」というメッセージは、強烈なエールとして私たちの心に深く刻まれました。

研修Ⅱの分科会も、県内全域から集まった会員同士が、地域の特色や学校規模に応じて展開される学校経営について、校長経験年数を超えて互いに学び合う貴重な機会になったという多くの感想が寄せられました。

次年度は、西村山地区が主管となり研究協議会を実施することになります。今年度の大きな成果を踏まえ引継ぎを進めていただくこととなりますが、中・長期的に本県の状況を俯瞰した時、学校数・会員数の減少も見据え、研究協議会のスリム化・効率化を検討していくことが求められていると考えております。

3 教職員の待遇改善に向け心を一つに

中教審の「審議のまとめ」から、経済財政運営の「骨太の方針」閣議決定まで、かつてない迅速さで「働き方改革の加速化・定数改善・教師の処遇改善」のいわゆる「3本柱」の議論が一体的・総合的に進展してきました。これは各県連小から各地区連小、全連小へと歴代の先輩方も含め訴えてきたことが結実しようとしている歴史的な動向です。教職員の待遇改善が一層前進するよう改めて心を一つに実践していきましょう。



報 告

1 全連小・東北連小関係から

- (1) 全連小会長連絡協議会7/10 (樋口潤一 会長)
- 中教審「質の高い教師の確保特別部会 審議のまとめ」には、3本柱として①学校における働き方改革の更なる加速化 ②学校の指導・運営体制の充実・定数改善 ③教師の処遇改善があげられ、それらの一体的総合的な推進があげられている。
 - 今の教職調整額の枠組みを維持したまま4%から10%以上へのペースアップを図ることが、最善の手だてと判断して進んでいる。このことを校長会として心を一つに理解し、応援していく。
 - 全連小の活動の価値や意義の一つは、「国に声を届ける」ということである。働き方改革に関わる様々な現場の声が緊急提言や審議のまとめ案に盛り込まれ、今まさに国を動かそうとしている。
 - 初等中等教育局教育課程課長 武藤久慶氏の講話から。一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現、すなわち日本型教育の良さを受け継いで、なおかつ発展させる新しい時代の教育が必要である。更に子ども一人一人自分が追究したいことを見つけ、諦めず追究し、そして実現していくことが学びであり、その有効な手段の一つがGIGAスクールということを確認し実践を重ねたい。
- (2) 東北連小理事会7/3 (大沼清司 幹事長)
- 9年度までは開催県が全ての分科会の視点2、開催県以外が視点1を分担してきたが、10年度からはその分担が逆になることを確認した。
 - 秋田大会の進捗状況の報告
令和7年7月3日・4日開催
全体会場：秋田芸術劇場ミルハス

- 宮城大会の進捗状況の報告。
令和8年7月2日・3日開催予定。
副主題を「夢をはぐくみ 志を高め ともによりよい未来を創造する子供を育てる学校経営」として進める。現在、各県からの参加人数が1/2となっているが、1/3などに減らす方向、リモート参加も検討していく。
よりコンパクトに効率的に実施する方向を理事会で形にしていく。
 - 9年度の福島大会の進捗状況の報告
全連小全国大会として、令和9年10月7日・8日、郡山市で開催予定
 - 東北連小の負担金について
平成18年度から2,000円としてきたが、このままで行くと、令和10年度に繰越金がなくなる。予算の確保は非常に大きな課題であり、逼迫している現状である。今後の理事会で具体的にどのような方法があるのか考えていくことが必要である。
 - 研修課題「管理職及びミドルリーダーの育成について」
- (3) 東北連小教育課程委員会6/12 (横山 聡 幹事)
- 東北連小秋田大会では、分科会会場としてホテルだけでまかなうことは困難で、公共機関を利用することになる。その場合開始時刻を遅らせることとなるが、3時間を確保して日程を調整する。
 - 秋田県では、学校数の減少に伴い、県の研究大会を半日開催とすることとした。今年度から午前準備を行い、午後を大会・撤去までとする1日で実施することにし、縮小した。講演会を廃止し、閉会式を分科会ごとに行うことにして、半日日程とした。
- ### 2 県連小各専門委員会から
- (1) 対策委員会 (佐藤浩子 幹事)
- 第1回小中合同対策委員会議(5/7)：令和6年度の「重点」、令和7年度提出の「お願い」、経営懇

地区校長会訪問

北村山は一つ

北村山地区校長会

北村山地区小学校長会は、村山市・東根市・尾花沢市・大石田町の3市1町の小学校24校の校長で組織されている。今後の学校統合も視野に入れ、方向性を新たにしているところである。

各事業の取組の他に、3つの研究委員会を組織し、「教育課題」「危機管理」「社会との連携・協働」については、各校の情報を共有しながらそれぞれの学校運営に生かしているところである。

また、学力向上や不登校等、課題となることについても、それぞれの取組を共有し、講師を招聘し全員で講話をお聞きしながらさらなる取り組みに生かしていくところである。

北村山地区の教職員の資質・能力の向上とそれが子どもたちの可能性を拓き、高まっていくことを支えることのできる学校運営となるよう今後も学び合い・高め合える校長会となるよう共に歩み続けていきたいと考えている。

東根市立東根小学校 笹原良子

談会の持ち方等について協議した。

- 令和5年度の教育長回答後に修正した「お願い」を令和6年度の「お願い」として5/27に提出した。
- 第2回小中合同対策委員会議(7/1):経営懇談会の業務分担、「課題」や「具体的にお願いしたい事項」について協議した。
- 経営懇談会(8/1):実態をもとに、県教育局と小中対策委員代表を、小中学校長がファシリテータとして鼎談した。

- (2) 生徒指導委員会 (鈴木義彦 理事)
- インターネット関係の提言については刻々と状況が変化しており、バージョンアップの必要性があり検討を進めていく。
 - 全県でのアンケートなので、これに基づいて考えていくことが大切である。
 - 生の声をそのまま聞くという情報交換が非常によかった。それをもとに各地区で協議する時間が設定できなかった。今後は、このアンケートをもとに刻々と変化していく状況を踏まえながら話をしていく方向で進んでいきたい。
 - 学校によっていじめの数認知について差があり、数字が大きく変わっていく。

生徒指導上の問題は複合的要素が多く、家庭環境、特別支援関係、担任との関係等と様々である。市教委もかなり苦勞している。やはり、ここでスクールロイヤーのような外部的な支援が必要になってくる。

- 第3回生徒指導委員会(10月8日)でスクールロイヤーの方の講話を予定している。生徒指導委員会以外の校長先生方にもご案内を出す。Webでの参加となる。

- (3) 研修委員会 (佐竹康弘 理事代理)
第2回研修委員会(7/20) Web会議

- 第78回県連小研究協議会(飽海地区主管)のふりかえりと第79回県連小研究協議会(西村山地区主管)の進捗状況について
- 研究紀要第68号の編集・発刊について

協 議

1 山形県連合小学校長会細則の改正について

(大沼清司 幹事長)

- 第3条4「委員となることは……」の前に「原則として」を追記する。
- 付則の最後に「本細則は、令和6年8月23日改正し、令和7年4月1日より施行する。」を追記する。

2 令和6年度第78回山形県連合小学校長会研究協議会(飽海主管)の成果と課題について

(阿彦 淳 実行委員長)

- 校長先生方に、学校経営にエネルギーを燃やしてほしいという願いのもと、講師選定に力を注いだ。
- 1日の研修の流れについて検討していくことが必要ではないか。スリム化していくべきではないか。
- 会場をヒルズサンピアにした理由や経緯を残していく必要がある。
- 理事会や研修委員会での検討を通して、これからの県連小、委員会の良い在り方を同時進行でみていき、何年度から新しい形で始める、というように進めていければよいのではと思う。

3 令和7年度「第79回県連小研究協議会」西村山地区担当について

(佐竹康弘 理事代理)

- 令和7年6月13日(金)、ヒルズサンピアで開催となる。
- 大会趣旨及び分科会趣旨について県の第7次教育振興計画を可能な限り受けた形で作成する。

飽海地区校長会

子どもの未来の姿を描きつつ、高め合う組織として

飽海小学校長会は、酒田市21校、遊佐町1校、計22校の校長で組織し、「学び合う」「連携する」「人を育てる」の3点を重点として活動している。今年度は、第78回県連小研究協議会の主管地区として運営することに注力し、「学び合う」校長会につながるよう企画準備してきた。参集型の研究協議会としては5年ぶりの開催となり、全県の校長が一堂に集まる意義を再確認し、当日の運営についても負担軽減の視点を取り入れながら改善を図り、研修を深めることができた。

また、令和3年度より、学校運営力の高い教員を地域ぐるみで計画的、組織的に次世代リーダー・管理職候補として育成を継続する「学校運営講座」を開催している。学校運営講座Aは7月から月1回、新採教頭による講話、レポート提出、教育法規に関することや教頭としての考え方や取り組み方に関する面接研修を全校長が関わり行っている。学校運営講座Bは年3回、テーマを設け担当校長を含めたグループ討議や事前レポートを作成、発表することで今後の学校運営に参画できる教員の育成を目指している。担当校長だけが協力参加する研修ではなく、全ての校長が飽海の未来を拓くリーダー育成に関わり、意識を高めることができている。

飽海小学校長会は、お互いに学び合い高め合う組織である。今後も対話を通して、一人職である校長を支え合う仲間でありたい。

酒田市立宮野浦小学校 船山和彦

理事研修会議より

〈テーマ〉生徒指導

「県連小生徒指導部アンケートを活用した取組」について

話題提供 西置賜地区校長会 丸川 和久 理事
(白鷹町立荒砥小学校)

【話題提供の趣旨】

生徒指導委員会のアンケート調査結果を各地区で十分に活用できなかったという反省を受け、今年度は、県連小理事研修会議で、アンケート調査のまとめを踏まえた各地区の活用状況等について情報交換し、研修の場とする。

【話題提供】

- (1) 県連小生徒指導委員会アンケートを活用した取組の経緯
 - ・西置賜地区小学校長会議における研修計画は年度始めに決定することになっている。アンケートを活用した研修を、翌年度の計画に位置付けることを、令和4年度の最終の企画委員会で確認して、令和5年度に実施した。
- (2) 県連小生徒指導委員会アンケートを活用した研修の実際
 - ・第4回地区小学校長会議で、「いじめ」「不登校」「保護者対応」「学級経営に関する問題等」の4グループに分かれて情報交換と協議を行った。
- (3) 研修を通して学んだこと～会員の声から～
 - ・校内巡視において気づいた事案、人材育成や若手教員、ベテラン教員の意識改革等の事案、一人で抱え込まない雰囲気作りを校長がコーディネートする事案等があった。
 - ・事実の把握、情報収集、組織で対応、保護者と一緒に考える姿勢、スピード感をもってぶれずに対応していくことが重要である。
- (4) 今年度の研修の方向性
 - ・学校課題に応じて分科会を選択し、情報交換や協議とするが、十分な時間を確保する。
 - ・県連小アンケートで苦慮した事案を参考に、対応方法について検証してみることも検討していく。ただし、校長の負担にならないように配慮する。

【各地区理事から】(抜粋)

〈各地区のアンケート活用について〉

〔山形〕

- ・校長会の中で生徒指導部長が中心となり情報共有と情報交換を進めている。県と同様の調査を毎月行い、山形市の月ごとの状況を捉えている。
- ・校長会でしか語れないような事例をとりあげて、効果的な対応の仕方について勉強をしている。

〔上山〕

- ・各校の実態の情報交換として活用している。西置賜の取組はとても勉強になった。

- ・生徒指導対応についても、学び合うことの必要性を感じ、テーマを決めて話し合う時間を設けるようにしている。

〔東村山〕

- ・地区校長会では、県の動きや報告等が中心となり、情報交換の時間を設定することが難しいが、時間を捻出していくことになっている。
- ・資料だけでは読み取れないところがあり、校長会で直接話を交わすことの必要性を感じている。

〔西村山〕

- ・アンケートは実施集計と公表をしている。校長会の報告をしているが、それをもとに活用や話し合いはなされていない。
- ・危機管理上、学校を空けることを極力減らしていこうとしている。研修の充実との兼ね合いを考えながら西置賜の取組を参考にして進めていく。

〔北村山〕

- ・毎月アンケート報告をして共有している。効果があった事例や対応が難しい事例を参考にしながら活用している。
- ・いじめへの対応の仕方について、人材育成面でも材料として研修で活用している。

〔最上〕

- ・校長会での取組というより、各学校で活用している状況である。
- ・危機意識を高めていくためにもアンケートの活用を図っていきたい。

〔米沢〕

- ・アンケートを活用した研修の場は、情報共有と校長会だからこそ語り合えるものとなっている。
- ・昨年度は、特に不登校や不適切事案等について取り上げ研修を行った。

〔東置賜〕

- ・アンケート活用については、夏の研修会で時間をとって行うことになっている。
- ・毎月の校長会で情報交換をしている。不登校や不適応、いじめ、SNS上トラブルが多くなっている。

〔田川〕

- ・アンケート結果の活用はなかなか図られていないが、参考にして年間計画に組み込んでいきたい。
- ・昨年度は、保護者と信頼関係をどう築き生徒指導を進めていくかについて研修会を開催した。

〔飽海〕

- ・小中一貫的で連携的な取組が多く、学力面、生徒指導面、特別支援の面を同じレベルで相談できる。
- ・トラブルが発生しやすい保護者、起りがちな保護者、注目しておいた方がよい保護者を知っておくことは対応する上で大切である。

